ＪＥＣ関連
掲載記事

2025.6~2026.5

JEC
MANAGEMENT CONSULTANT Co.,Ltd.

2025年6月1日(日)北日本新聞

■丹精込めたサツキ出品

立山

立山さつき会（森川勝行会長）の「春の花季さつき展」が31日、立山町吉峰野開のグリンパルよしみねで始まり、会員11人が丹精込めて育てたサツキ17席が並ぶ＝写真。1日まで。

花びらの周囲が白色で中が赤色の「日の丸」や花が細い「立山の舞」などが目を引き、訪れた人が花の形や色、木肌、根の張り具合などをじっくりと観賞していた。人気の小さな盆栽も展示した。北日本新聞社後援。

▽立山町長賞＝森川勝行▽舟橋村長賞＝辻浩光▽立山町教育委員会賞＝佐藤國光▽立山町議会議長賞＝盛生昭雄▽アルプス農業協同組合長賞＝西川正勝▽北日本新聞社賞＝村上三郎▽立山町金融協会賞＝前原清輝▽立山舟橋商工会賞＝奥澤和男▽花と緑の銀行賞＝菅原寿郎▽株式会社たてやま賞＝西川正勝

2025年（令和7年）6月10日 火曜日 地域ニュース 18

深層水塩ラーメン味わって

滑川高生 北陸道SAで試食販売

滑川

滑川高校商業科の生徒が開発した「滑川海洋深層水塩ラーメン」の試食販売会が8日、滑川市栗山の北陸自動車道有磯海サービスエリア（SA）上り線で開かれた。3年生5人が売店の入り口に立ち、海洋深層水の塩を使ったミネラル豊富な一杯をPRした。

塩ラーメンは地域資源の活用を狙い、2020年度に同校商業科の先輩生徒が考案した。滑川沖の海洋深層水で作った塩をスープや麺に使ったメニューで、もっちりした食感や白エビの風味も特徴。生麺とスープのセットを同SAやほたるいかミュージアムなどで販売しており、これまで5万食以上を売り上げた。

この日は、栃山陽菜璃さん、森美祐さん、初田千麗さん、齋藤麻由子さん、安田雪さんが参加し、その場で調理した試食品を来店客らに振る舞った。熱々の一杯を口にした人の評価は上々で、約50袋が売れた。

栃山さんは「予想以上に好評でうれしかった。地元の資源をアピールし、さらに知名度アップを目指したい」と話した。

塩ラーメンを振る舞い、地域資源の魅力をPRする生徒ら

2025 年 6 月 15 日（日）北日本新聞

手作り雑貨並ぶ

山ね子の会展

立山

雑貨の手作り愛好者でつくる「山ね子の会」（堀田ゆきこ代表）の手作り展が14日、立山町のグリンパルよしみねで始まり、多彩な古布を使った小物や衣類が並んだ。15日まで。

県内の25人が出品し、着物をリメークした洋服や人形、雑貨などを展示販売している。来場者は作家との会話を楽しみながら、お気に入りの一品を探していた。15日は午前10時～午後3時。北日本新聞社後援。

手作りの小物や衣類が並ぶ会場

「観光まちづくり会社」設立

来月業務開始 社長に四十万氏

四十万隆一氏

魚津

魚津市の観光と産業の振興に取り組む「魚津観光まちづくり株式会社」は18日設立した。魚津商工会議所ビルで創立総会と取締役会を開き、社長に前副市長の四十万隆一氏(68)が就いた。会社事務所は、にいかわ信用金庫魚津駅前支店(同市釈迦堂1丁目)の3階に置き、7月から業務を開始する。

総会で村椿晃市長が「まちづくりや観光振興のかじ取り役として地域の発展につなげたい」とあいさつした。資本金は2600万円で、市や魚津商議所、企業など40団体・個人が出資した。取締役は社長を含む5人、監査役2人体制で、社員は事業統括マネジャーら4人。事業アドバイザー、地域おこし協力隊員ら3人が実務をサポートする。

当初は「観光地域づくり」と「まちづくり」の二つの会社を立ち上げる方針だったが、昨年に統合して設立することを決めた。総会で事業計画を承認。観光分野は魚津駅観光案内所の運営、観光地域マネジメント・マーケティング事業、観光コンテンツや地域ブランドの開発などに取り組む。まちづくり分野は、にぎわい創出支援、創業・出店相談窓口の運営、市の業務支援などを担う。

記念セミナーがあり、専務に就いた前市企画部長で市企画統括監の宮野司憲氏が講演した。

◇役員▽専務=宮野司憲(市企画統括監)▽取締役=赤坂光俊(市産業建設部長)=山崎孝(ジェック経営コンサルタント社長)=小林正伸(ありそみ不動産評価研究所代表)▽監査役=大崎敏治(魚津商議所専務理事)=高田啟史(北陸銀行魚津支店長)

北日本新聞2025年6月19日

路上禁煙条例を検討

北日本新聞 2025年6月20日

黒部市内の観光地の魅力向上に向け、市は路上喫煙について禁止条例の制定を含めて検討する。野村康幸氏の一般質問に、市長が答えた。

野村氏は宇奈月温泉街や宇奈月温泉スキー場、道の駅KOKOくろべなどを挙げ、観光地の路上喫煙禁止は都市ブランド向上につながると指摘した。市長は「エコツーリズムなど環境に配慮した観光地としての評価につながる」とし「国内の観光地の状況を注視し対応を検討する」と答えた。

市には、宇奈月温泉街の路上にたばこの吸い殻が捨てられているとの情報が寄せられることがあるという。

地産かすみ草でオブジェ

KOKOくろべ あすからフェア

切り花販売

オブジェの前でかすみ草を手にする木津さん(右)と原さん(右から2人目)

北日本新聞2025年6月27日(金)

黒部

JAくろべは28日から、黒部市堀切の道の駅KOKOくろべ内の直売所「瑞彩マルシェ」で、かすみ草フェアを開く。黒部で栽培したかすみ草を販売し、市内のフラワーデザイナーが制作したオブジェを展示する。

農事組合法人「前山」(同市前沢)が露地栽培のかすみ草を出荷。白色のほか、染料を混ぜた水を吸わせて花に色を付けた切り花(500円)を販売する。ドライフラワーにしても色が抜けにくい特徴があるという。

北日本新聞2025年6月26日(木)

台湾見本市に県ブース

農水産物の魅力発信

県内産の農水産物の魅力を発信しようと県は、25日開幕した台湾最大の国際食品見本市「フード台北」にブースを出展した。県内13事業者の加工品などを紹介し、輸出拡大につなげる。見本市は28日まで。

同見本市は台湾内外からバイヤーが集まる。昨年は一般を含めて約4万8千人が来場した。

県ブースの出展は8年連続3度目。出品した13事業者のうち、みそ・しょうゆ醸造、酒造、アイスクリーム製造など6事業者は現地を訪れて商品を紹介している。28日は佐藤一絵副知事が会場でPRする。

県内事業者の商品が並ぶブース=台北市

富山大学 とやま広報部発行 フリーペーパー
「ぼくらの秘密旅 Vol.03」2025年春号

◀表紙　▼記事

雨でも晴れでも ちょこっとお出かけ

高岡市雨晴海岸

日本の渚百選にも選ばれた絶景スポット！！
海と山のコントラストが美しく、四季折々の表情を見せてくれます

駅に着くと、冷たい雨。
景色は霞めかなと思っていました。
取材を終えて帰ろうとしたちょうどその時
空が明るくなってきたので
駅へと向かおうとしていた足を方向転換。
海岸の方へと向かうと、女岩と海の向こうに立山連峰を望む絶景が。
最初は雨が降っていましたが、雨晴という地名の通りに晴れ
綺麗な景色を目にすることができました！
見え方は時の運となりますが
刻一刻と移り変わりゆく景色をぜひご覧ください

雨晴の由来

浜辺の波打ち際から女岩を眺め、さらに富山湾越しに雄大な立山連峰を見ることができます。
海越しに3,000m級の山々を眺めることができる世界でも珍しい場所です。
磯にある「義経岩」は、源義経が兄頼朝から追われて北陸から奥州へ落ち延びる途中に、
弁慶が持ち上げた岩陸で、にわか雨が晴れるのを待ったという岩で、「晴」という地名の由来にもなっています。
また、奈良時代に越中国主だった大伴家持は、この地の風景を数多く歌に詠んでいます。
なお、「万葉集」でこの海岸は渋鮑（しぶたに）と詠まれています。

道の駅　雨晴

列車の通過するタイミングには、展望デッキで多くの人がカメラを構えています。
館内では、工芸品からお菓子まで幅広いラインナップのお土産が販売されているほか、地元産の食材を盛り込んだランチやスイーツ・ドリンクを、海を眺めながら堪能できます。

伝統工芸高岡銅器である
「りん鐘」の音色は、
心も体も癒してくれます。

道の駅「雨晴」

〒933-0133 富山県高岡市太田24番地74
TEL　：0766-53-5661
営業時間：9:00-17:00（季節により変動あり）
定休日　：なし

1F　観光案内所・情報発信コーナー
2F　カフェ・ショップ・展望デッキ
3F　多目的ルーム・展望デッキ
※トイレ・情報発信コーナー、2,3F展望デッキは24時間開放

制作者おすすめカフェメニュー３選

雨晴サンデー
¥650円

義経パフェ
¥650円

射水産マスバーガー
¥980円

ウチョウラン並ぶ

グリンパルよしみね

立山町ウチョウラン愛好会（信濃宗義会長）の展示会が28日、同町吉峰野開のグリンパルよしみねで始まり、見頃を迎えたウチョウランが会場を彩った＝写真。29日まで。

町内外の会員5人が丹精込めて育てた113鉢が並ぶ。紫色や薄いピンク色など、小ぶりでかわいらしい花が咲き、来場者を楽しませていた。29日は午前9時～午後4時半まで。苗の販売コーナーも設けている。

北日本新聞2025年6月29日(日)

黒部峡谷鉄道方針

全通可否 来夏見通し

落石対策 順調に推移

能登半島地震

黒部峡谷鉄道（黒部市黒部峡谷口、鈴木俊茂社長）は27日、トロッコ電車の終点�平駅までの全線開通の可否に関する見通しを2026年7月ごろに示す方針を明らかにした。能登半島地震で損傷した鐘釣橋などの復旧工事が順調に進むことが前提となる。

同社と関西電力が同市芸術創造センター・セレネで会見を開き、工事の状況を説明した。トロッコ電車は今季も猫又駅を臨時終点として折り返し運行する。

鐘釣橋への落石をもたらした東鐘釣山の岩盤については、落ち残れがあるとの所を除去し、亀裂をセメントで接着している。工事は順調に進んでおり、25年度中に終了する見込み。

26年度には鐘釣橋の本格復旧を始める予定で、早ければ同年9月に工事が完了。橋から欅平までの軌道敷や駅舎、駅周辺の散策道などの安全性を確認した上で全線開通する方針という。

今春に沿線2カ所で見つかった崖崩れが原因とみられる斜面の崩落についても説明した。鐘釣駅上流の軌道敷直下の斜面は高さ18㍍、幅20㍍にわたって崩落していたが、軌道敷などに影響はなかった。ブルーシートで養生済みで、今後はボーリング調査などで詳細を調べて対応策を検討する。

欅平駅近くの雪崩は復旧工事のために設置した足場を破壊したが、軌道敷や柵などに影響はなかった。

雪崩で壊れた復旧工事用の足場＝7日、欅平駅

軌道敷直下で崩落した斜面。養生用のブルーシートが張られている＝13日、鐘釣駅周辺

北日本新聞2025年6月28日(金)

北日本新聞2025年7月2日

地域活性化へ一丸

観光まちづくり会社開所

魚津

魚津市の観光と産業振興を担う魚津観光まちづくり株式会社の業務が1日始まり、同市釈迦堂1丁目の事務所で開所式があった。窓口の営業は7日に始まる。

神事で社業発展を願い、四十万隆一社長が「市全体の活力を生み出すという使命達成に向け、一丸となって頑張りたい」とあいさつした。

同社は市や魚津商工会議所、企業など40団体・個人が出資して6月18日に設立した。魚津駅観光案内所の運営、観光コンテンツや地域ブランドの開発、にぎわい創出支援、創業・出店相談窓口の運営など、観光地域づくりとまちづくりの両事業を通し、地域活性化に取り組む。

社長ら取締役5人、監査役2人、社員4人体制で、地域おこし協力隊員ら3人が業務をサポート。事務所は、にいかわ信用金庫魚津駅前支店3階を間借りした。

業務が始まった魚津観光まちづくり株式会社の事務所

夏の山野草涼しげ

グリンパルよしみね

立山

「夏の山野草展」が5日、立山町吉峰野開のグリンパルよしみねで始まり、会員が丹精込めて育てた季節の花や涼しげな葉の植物が並んでいる＝写真。6日まで。

立山山草会（森壽信代表）の会員10人が127点を出品。ドクダミやウチョウラン、アジサイ、キキョウ、ふ入りのギボウシなどが展示され、訪れた人はじっくりと観賞した。ウチョウランなどは販売も行っている。北日本新聞社協賛。

北日本新聞2025年7月6日(日)

北日本新聞2025年7月2日(水)

八重津浜で浜開き

海山の安全祈る

富山市の八重津浜海水浴場浜開き祈願祭が1日、同海水浴場で行われ、関係者ら約20人がシーズン中の安全を祈った。

越中護国八幡宮（同市）の鯉岐芳紘禰宜が神事を執り行い、出席者らが玉串をささげた。同海水浴場組合の林真一組合長は「たくさんの方に来てもらえるよう、マリンスポーツなどさまざまなアクティビティを企画している。安全に楽しんでもらえるよう取り組んでいきたい」と話した。

浜茶屋の本格的な営業は12日からを予定している。

シーズン中の安全を祈願する参列者＝八重津浜海水浴場

立山駅で夏山開き

立山夏山開きは1日、立山黒部アルペンルートの玄関口となる立山駅（立山町千寿ケ原）で行われ、出席者が今シーズンの安全を祈った。【本記1面】

安全祈願式には行政や観光、山岳などの関係者ら約80人が出席。神事の後、舟橋貴之町長があいさつし、亀山彰県議、村上紀義町議会議長が祝辞を述べた。

地元のむつみ幼稚園の園児がくす玉を開き、立山楯現太鼓の力強い演奏などで夏山シーズンの到来を祝った。

立山夏山開きであいさつする舟橋町長＝立山駅

北日本新聞2025年7月7日(月)

暑さに負けないぞ

黒部

きょう小暑

高気圧に覆われた6日の県内は気温が上昇し、最高気温は富山33.5度、高岡（伏木）32.7度など、全10観測地点で30度を超える真夏日を観測した。道の駅KOKOくろべ（黒部市浦切）の水辺エリアでは、水遊びをする子どもたちの元気な声が響いていた。

7日は二十四節気の一つで暑さが本格化する頃とされる「小暑」。富山地方気象台によると、引き続き高気圧に覆われ、昼ごろまで晴れる見込み。日中の最高気温は富山34度、高岡33度を予想する。

水遊びを楽しむ子どもたち＝道の駅KOKOくろべ（上田友造撮影）

北日本新聞2025年7月13日(日)

■ウチョウランずらり

立山

県ウチョウラン保存会の遅咲きウチョウラン展が12日、立山町吉峰野開のグリンパルよしみねで始まり＝写真、金賞に信濃宗義さん（立山町）の「寒月」が選ばれた。13日まで。

会員8人が164鉢を出品した。白や紫など柔らかな色合いの花が並び、訪れた人は多彩な作品に見入っていた。13日は午後4時半まで。北日本新聞社後援。

▽銀賞＝荒木秀樹（富山市）石倉保（魚津市）▽銅賞＝宮成久雄（朝日町）信濃田美子（立山町）石倉美枝子（魚津市）

立山 農家民泊11年目

北日本新聞2025年7月11日(金)

自然体験 修学旅行で好評

受け入れ先確保課題

都会地の子どもたちに田舎暮らしを体験してもらう「農家民泊」の取り組みが、立山町で11年目を迎えた。大阪市の中学生を中心に延べ約6500人を受け入れ、関係人口創出に一役買ってきた一方、近年は農家の高齢化などで受け入れ先確保に苦慮するなど課題も出ている。

立山町の農家民泊は2014年にスタートした。12年に設立された町農家民泊体験推進協議会が修学旅行の誘致や地元農家に理解と協力を求めてきた。運営には株式会社たてやまが携わる。

今年は5、6月に大阪府から修学旅行の中学生計300人が訪れた。このうち大阪市野田中学校の3年生約100人は6月4日から1泊2日滞在。農家や民泊施設など25軒に分かれ、町の自然や文化を体験した。

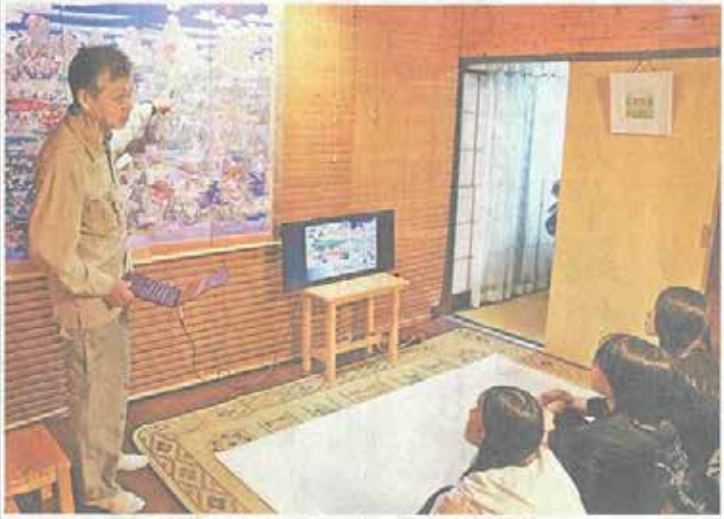
野村地区の兼業農家、柵富雄さん(73)方では女子生徒3人が過ごした。田んぼの水に触れたり、畑に野菜の苗を植えたりしたほか、近くの富山地区広域圏クリーンセンターの展望台から田園風景を満喫した。夜には立山曼荼羅の絵解きを通して立山信仰の歴史文化も学んだ。

生徒たちは「住んでいる場所はビルばかり。田んぼがいっぱいの場所も初めて」と語り、「カエルの鳴き声がすごくて、とにかく新鮮」と口をそろえた。

受け入れ人数は、ピーク時は千人を超えたものの、コロナ禍による中断を経て近年は年間200～300人台で推移する。

地元が直面しているのが協力農家の確保だ。株式会社たてやまの担当者によると、多い時は100軒超の協力を得られたが、住民の高齢化に伴って減少。かつての規模で受け入れることが難しく、農家以外の力を借りて事業を続けているという。

ただ、農家民泊は生徒にも地元にもメリットがあるとして継続を望む声がある。大阪の生徒を受け入れた柵さんは「我々が普段見慣れた光景でも何でも魅力に映るようだった」と足元を見つめ直す機会になったという。「今後も続けていくべきと思うし、協力していきたい」と話した。



受け入れ先の民家で立山曼荼羅の絵解きに耳を傾ける大阪市内の中学生たち＝6月

2025年7月26日(土)北日本新聞

雪の大谷イメージ 米粉バウムクーヘン

きょう立山まつりで販売

立山町の新たな土産物として、町産の米粉を使ったバウムクーヘン「雪の大谷米っ粉バウム」が完成した。雪の大谷をモチーフに壮大な景観を表現。26日に五百石地区で開かれる立山まつりの会場で販売する。

町の特産品開発への支援事業を活用した第1号。立山黒部アルペンルートの雪の大谷をイメージした。商品を手がけた株式会社たてやまによると、立山まつり当日は、雄山高校生の協力を得て試食会を開催する。販売も行い、午後4時～同8時半まで。

販売価格は1個200円で、3個セット（600円）もある。いずれも税込み価格。26日以降はグリーンパーク吉峰「ゆ～ランド」と弥陀ケ原ホテルの売店で販売する。同社は「町の魅力を伝える土産物として多くの方に手に取ってもらいたい」としている。

▲ 雪の大谷を表現した米粉バウムクーヘン

2025年7月26日(土)北日本新聞

県東部

有磯海SA魅力増へ企画

情報ビジネス専門学校生 富山で発表

売り上げや滞在時間分析

企画を発表する学生

北陸自動車道有磯海サービスエリア（SA、滑川市栗山）の利用促進に向け、富山情報ビジネス専門学校（射水市三ケ）の学生11人は25日、富山市湊入船町のジェック経営コンサルタントで「有磯海サービスエリアへの新企画提案発表会」を行った。（森谷紗英）

データマーケティング専攻の1、2年生は、同社でコンサルタント事業を担う上田亜希子係長を非常勤講師に、4月からマーケティングの基礎知識を学んできた。地域と連携した取り組みの多い同SAを対象に3グループに分かれ、売り上げや滞在時間などのデータを分析。実際に足を運んでSAの魅力向上策を考えてきた。

この日は同SA店舗関係者や、SA管理者の中日本エクシス金沢支社、コンサルトスタッフの前で各グループが企画案を発表した。2年生の1グループは、SA利用者の多くはトイレ休憩が目的であると分析。駐車場からトイレまでのルートにSAの名物「ますずしフライ」の販売屋台を設ける案を披露した。

発表した2年生の松井稔通さんは「企画するのは難しかったが、さまざまなところにアンテナを張る意識を持てた」と話した。

富山新聞2025年7月26日(土)

有磯海SA利用増 専門学校生が提案

富山情報ビジネス専門学校情報ビジネス学科の1、2年生11人は25日、富山市湊入船町のジェック経営コンサルタントで、北陸自動車道有磯海サービスエリア（SA）の利用率向上に向け、ドッグランの設置などを提案した。

提案を発表する専門学校生＝富山市湊入船町

生徒は県内にドッグランがあるSAがないことに着目し、愛犬家を呼び込もうと設置を提案した。一般道からもSAの利用を呼び掛けるポスターの制作、「ますずしフライ」のにおいで客を引き付けるユニークな案も披露した。

県が台湾、香港輸出支援

農産物や加工品、流通ルート構築

県は本年度から、台湾、香港への県産農産物やその加工品の輸出を支援する。県内と現地の両方の事情に詳しい地域商社2社を選定。県内の生産者や加工業者が地域商社に相談し、販路開拓や流通ルートの構築などで協力を得て、現地のレストランや小売店に納品している輸入業者と取引を始められるようにする。（小森直人）

地域商社2社と協力

2社は台湾向けが高山市に事務所を置くジェック経営コンサルタント（富山市）、香港向けはOKB総研（大垣市）。県がプロポーザル方式で選び、輸出拡大業務を各約300万円で委託した。それぞれ現地ニーズの調査や輸出の相談対応、見本市への出展、飲食店でのPRイベント、スーパーでの物産展、交流サイト（SNS）での情報発信、バイヤーとのマッチングなどに取り組む。

農産物の輸出に興味を示す生産者が増える中、県は台湾で開かれた国際食品見本市に飛騨牛や日本酒、鮎加工品を並べたブースを出展するなど、販路開拓に向けたPRを行っている。一方、県内から販売先までの流通ルートの確保が課題となっていた。

県農産物流通課は「海外の地域を絞って商品を届けたい人の一助になれば」と話す。対象は県産農畜水産物の生産者やそれを主原料とする加工品の製造業者で、地域商社の支援は無料で受けられる。問い合わせはジェック経営コンサルタントが電話076（444）0035、OKB総研が電話080（8673）8901。

国際食品見本市で県産農産物や加工品をPRした県ブース。県は地域商社を通じた流通ルートの構築支援を始める＝6月、台湾・台北市

岐阜新聞2025年7月30日(水)

ホクリクプラス1周年

大阪のアンテナ店 富山の商品人気

北日本新聞2025年7月29日(火)

JR大阪駅西口の商業施設「KITTE（キッテ）大阪」内にある北陸3県の魅力を発信するアンテナショップ「HOKURIKU+（ホクリクプラス）」が31日、開館1周年を迎える。北陸の食や工芸品など多彩な品を取りそろえ、KITTE内に16あるアンテナショップの中でも高い人気を誇り、3県の知名度向上につながっている。

来店者は開業から今年6月末までで約154万人に上り、富山県関連の商品の売り上げは約9200万円。ほたるいかの沖漬けといった水産加工品や和菓子などが人気を集める。来店者は、大阪や兵庫など関西在住の人が大半で、40代から60代の女性が多い。

ショップには外国語に対応できるコンシェルジュが常駐しており、観光や食に関する相談が1日平均20組程度ある。立山黒部アルペンルートや富山市内の居酒屋など富山に関するものが6割程度を占め、関心の高さをうかがわせる。塩谷和之支配人は「3県の魅力がもっと伝わるように、一歩踏み込んだ接客に努めたい」と意気込む。

周年に合わせた感謝キャンペーンを開催しており、3県の地酒まつりやオリジナルグッズの販売、フォトコンテストなど多彩な企画を用意する。会期は8月8日まで。

富山の商品が並ぶコーナーには、多くの買い物客が訪れた＝ホクリクプラス

大阪駅に展示するパネルのデザインを紹介する新田知事（左）＝県庁

北日本新聞2025年8月1日(金)

すし発信へ「夏の陣」

県と北九州市・JR西 26日 大阪で協定

すし文化を世界に発信して交流人口や関係人口を増やそうと、県と北九州市、JR西日本は8月26日に大阪で連携協定を結ぶ。締結を記念して「大阪夏の陣」と銘打ち、両地域のすしの食べ比べ試食会やトークショーなどを行う。知事が定例記者会見で発表した。

県と北九州市は6月に「すし会談」を県庁で開き、両地域を結ぶ鉄路を生かして「すしのゴールデンルート」を構築することで合意。両地域のほぼ中間地点に当たる大阪で、JR西を交え協定を結ぶことにした。

締結式は北陸3県のアンテナショップ「ホクリクプラス」が入る「KITTE大阪」で開く。

「夏の陣」では来訪者に、どちらの地域に行きたいかアンケート調査も行う。

8月15～28日には大阪駅に幅7・2㍍、高さ2・1㍍の大型パネルを掲示し、両地域のすしや観光をPRする。

北日本新聞2025年8月6日(水)

ひまわり迷路 お盆に満開

くろべ牧場で開通式

黒部市のくろべ牧場まきばの風に造られた「ひまわり迷路」の開通式が5日開かれ、関係者が多くの来場者を願った。7月の雨量が少なかったためヒマワリの丈は20～30㌢ほどと短く、15日ごろに満開になる見込み。

同市前沢地区の農業団体「黒部ファーストペンギンプロジェクト」と県立大ひまわりサークルなどが7月12日に20㌃の畑に種をまき、約20万本が育った。本来は高さ1・2～1・5㍍に育つ品種という。

開通式で同プロジェクトの村井斉昭代表と同サークルの高橋克弥代表(3年)が「黒部の良さが伝わるようPRしたい」とあいさつ。同牧場の橋場和博場長や飼育されているヤギが加わり、一緒にテープカットした。

前沢地区の休耕田7・5㌶でもヒマワリが咲き、今月中旬ごろまでが見頃となる。市は混雑緩和に向けて9、10、16の各日に道の駅KOKOくろべと同牧場を結ぶ無料シャトルバスを運行する。

ひまわり迷路を前にテープカットする関係者

富山新聞
2025年8月5日(火)

DX活用へセミナー

中部経産局北陸支局

DX（デジタルトランスフォーメーション）の活用に向け、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局は4日、富山市のKNB入船別館でセミナー＝写真＝を開き、オンラインを含めた参加者約80人が学びを深めた。

経済産業省のデジタル人材育成プログラムに昨年度取り組んだ2社が事業を報告。スギヨ（七尾市）はDX推進部を作った経緯などを紹介した。

北陸企業のDX支援 都内企業と業務提携

北陸銀

北陸銀行は4日までに、北陸地域を中心とした企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）支援に向け、IT企業「かっこ」（東京）と業務提携を始めた。

かっこが提供するAI（人工知能）や統計学などに基づくデータサイエンス技術を活用し、営業効率や生産性の向上につなげる。将来的には融資判断にも活用する。

北日本新聞2025年8月10日(日)

特産品買ってスタンプラリー

黒部 道の駅など5施設

黒部市内の施設を回り、特産品を楽しむデジタルスタンプラリーイベントが9日、同市の道の駅など5施設で始まった。全ての施設で商品を購入し、五つのスタンプを集めて応募すると、抽選で宿泊券などの賞品が当たる。9月30日まで。

特産品をアピールし、市内施設の周遊を促そうと、市が企画した。対象は道の駅KOKOくろべ、魚の駅「生地」、宇奈月麦酒館、くろべ牧場まきばの風、市地域観光ギャラリー「のわまーと」で、缶入りの宇奈月ビールやジェラート、かまぼこなどの商品を買うと、スマートフォン上でスタンプを受け取ることができる。

小学生以下の子ども向けイベントも実施。各施設に設置されたスタンプを台紙に全て押すと、景品が当たる。

スタンプラリーの対象になっている宇奈月ビール＝うなづき食菜館

北日本新聞2025年8月11日(月)

台湾料理 おいしそう

本江 和気あいあい3品作る

共田さん（左から2人目）と台湾料理を作る参加者

魚津 家庭でも楽しめる台湾料理を台湾出身の講師と作って味わう教室が10日、魚津市本江地域交流センターであり、30～70代の男女13人が和気あいあいと3品を調理した。

市が毎年3回程度開く「国際交流サロン」のことし1回目。台湾で生まれ、日本で育った共田吉孝さん（富山市）が講師を務めた。

参加者は台湾の調味料、沙茶醤（サチャジャン）を使った焼きそば、ネギパイ、大根とスペアリブのスープの3品を調理。共田さんからアドバイスを受けながら、楽しそうに作っていた。

北日本新聞2025年8月20日(水)

雄山高生厳選20冊人気

立山町の書店併設型コンビニ 生徒のコメント記す

高校生の選書が人気を集める「たてやまの本棚」＝立山町前沢

立山町前沢の町役場敷地内にある書店併設型コンビニ店「LAWSONマチの本屋さん」で、地元の雄山高校の図書委員の生徒が選んだ20冊を紹介しており、注目を集めている。

同店は昨年4月、コンビニ大手のローソンが県内初の書店併設型コンビニ店としてオープン。書店スペースの一角に地元関連の書籍などを集めた選書コーナー「たてやまの本棚」を設け、町内関係者が約2カ月ごとにリレー形式でお薦めを紹介している。同校図書委員は7番目に担当が巡ってきた。

委員8人は恋愛小説や高岡市伏木出身の芥川賞作家、堀田善衛さんの「方丈記私記」など計20冊を挙げた。ポップには生徒のコメントが記されている。10月頃からの次回も同校図書委員が担い、10人が20冊を紹介する予定。

舟橋貴之町長や立山博物館前長、同校校長らも同コーナーで本を紹介してきた。

富山新聞2025年8月9日(土)

「山アリ県」地酒で連携

きょうから大阪で飲み比べ

飲み比べイベントで提供する「山アリ県」の地酒＝大阪市内（県提供）

富山、岡山、山形、山梨、山口5県の大阪事務所は9～11日、大阪市の情報発信拠点「HOKURIKU＋（ホクリクプラス）」で共同の日本酒飲み比べイベントを開催する。11日の「山の日」にちなみ、県名に山が入る「山アリ県」としての初の連携企画となる。5県が地酒を並べ、各地の魅力を売り込む。

5県の日本酒飲み比べセットを税込み1千円で提供する。富山は皇国晴酒造（黒部市）の「厳瀬」を用意した。山口県の地酒を提供する飲食店「ヤムヤム」（大阪市）でも7～9日に同様のイベントを実施している。担当者は「富山への誘客にも結び付けたい」と話した。

「すし旅」で周遊促進

県 北九州市・JR西と協定

すしを生かした地域活性化に取り組む県と北九州市、JR西日本は26日、大阪市で連携協定を結んだ。両地域を結ぶ鉄路を軸とした「すしのゴールデンルート」実現に向け、地域の魅力を生かした「すし旅」の商品をつくり、相互誘客に取り組む。新田八朗知事は「連携を通じ、豊かなすし文化と地域の魅力を国内や世界に広めたい」と語った。

商品開発や相互誘客

協定は、すしに象徴される食と地域の魅力発信、北陸・山陽の両新幹線など鉄道を利用した観光誘客による「すしのゴールデンルート」推進、すしに関する関係人口拡大などまちづくりへの貢献を盛り込んだ。

東京から富山、大阪を通じ北九州に向かうルートづくりを目指し、県はすし職人体験や富山の伝統工芸、北九州の夜景などを組み合わせた旅を構想する。JR西は長期滞在のインバウンド（訪日客）向けでフリーパスを活用した旅を売り込む。

連携協定を結び、握手する（左から）右原、新田、武内、山内の各氏＝KITTE大阪

富山と北九州のすしを試食する近畿富山県人会の役員ら参加者

締結式は北陸3県のアンテナショップ「ホクリクプラス」が入る大阪駅前の商業施設「KITTE（キッテ）大阪」であり、新田知事と北九州市の武内和久市長、JR西の石原利信執行役員金沢支社長、山内崇福岡支社長が出席した。

締結を記念し「大阪夏の陣」と銘打ったイベントも同所で開催。新田、武内両氏にJR西の長谷川一明会長を交えたトークショーもあり、長谷川会長は「すしのゴールデンルートを通じ、地方都市の光輝く魅力を堪能してほしい」と期待した。食文化を楽しむ場を提供する日本ガストロノミー協会長の柏原光太郎氏が、富山と北九州の魚種やすしの魅力を紹介した。

富山のベニズワイガニや北九州のヒラメをネタにした両地域のすしの食べ比べ試食会や、どちらの地域に行ってみたくなったかの来訪者アンケートも実施。結果は富山が52％の支持を得て勝利した。

県は「寿司といえば、富山」を掲げて認知度向上や交流人口の拡大を目指しており、北九州市は今春に「すしの都課」を設置した。新田、武内両氏は6月に県庁で「すし会談」を開き、大阪でJRを交えた3者で連携協定を結ぶことを申し合わせていた。

北日本新聞2025年8月27日(水)

眺望・心地良い風満喫

加越能バス スカイバス運行開始

高岡 加越能バス（高岡市江尻）は11日、屋根のないオープントップバス「スカイバス高岡」の運行開始記念式典を同市下伏間江のイオンモール高岡で開いた。式典後に関係者向けの試乗会があり、乗客は高い目線を生かした開放感ある車内から残暑や心地良い風を満喫した。

バスは全長3・5㍍、長さ12㍍、幅2・5㍍で定員46人。乗客は高さのある座席から市内の風景を楽しむことができる。同社が創立75周年事業として9月12日～10月13日の期間限定で運行する。イオンモール高岡の駐車場内の乗り場を出発し、同市太田の道の駅雨晴を経由する所要時間1時間50分のコースを設けた。

式典で同社の松井康浩社長が「高岡の町並みや風、匂いをダイレクトに感じてほしい」とあいさつし、関係者とテープカットした。約40人が試乗した。

1日3往復する。料金は休日1800円（片道1000円）、平日1000円（片道600円）。小学生以下はいずれも半額になる。高速バスの予約サイト「発車オーライネット」で予約を受け付ける。

雨晴海岸沿いを走るスカイバス高岡＝高岡市太田

北日本新聞2025年9月12日(金)

学生が干物売り場PR

道の駅 アイデアで販売増貢献

黒部 水産物加工のダイサン大丸水産（黒部市吉田）にインターンシップに訪れている学生2人が11日、同市の道の駅KOKOくろべで、リニューアルした同社の干物売り場をPRした。

リニューアルした売り場をPRする（右から）川尻さんと田中さん＝道の駅KOKOくろべ

学生と市内企業が課題解決に取り組む市の「実践型インターンシップ」に参加している田中萌々香さん（20）＝埼玉大3年＝と川尻優希乃さん（20）＝上智大2年＝が約1カ月間の成果を紹介した。

2人は、KOKOくろべ内に設置された冷凍干物の販売ブースに「BBQにピッタリ」などと記したステッカーを貼り、考案したイカのキャラクター「するめん」を配置。安価な小分けの新商品をそろえ、交流サイト（SNS）で干物を使ったレシピを紹介するなどして、ブースの8月の売上を前年同月比29・7％アップさせた。

2人は「多くの人の支援でアイデアが形になった」と話した。同社の大丸総子社長（65）は「ホームページも新しくしてもらった。2人に負けないよう頑張っていきたい」と語った。

北日本新聞2025年9月12日(金)

北日本新聞2025年10月2日(木)

カニ味わい 地酒ぐいっ

魚津 まちづくり会社初事業

10、11日 駅前で屋台イベント

魚津の新鮮なベニズワイガニと季節の地酒を堪能しよう―。今年設立の魚津観光まちづくり会社（四十万隆一社長）は自主開催事業の第1弾として、10、11日の両日、魚津駅前で魚津産のカニや日本酒、地元飲食店の味を楽しめる屋台イベントを開く。魅力ある地場産品をPRし、地域や市内飲食街の活性化につなげる。（椎名哲平）

イベントに向けて準備を進める魚津観光まちづくり会社のメンバー＝魚津駅前

魚津観光まちづくり会社は観光振興や地域の活性化などを目指し、今年6月に設立。イベントや観光推進事業の企画を進めている。今回は9月に漁が解禁され、県内最多の漁獲量を誇る魚津産ベニズワイガニの認知向上と魚津の食の魅力発信、駅前飲食店街のにぎわい創出を目的に開く。

イベントは「魚津駅前屋台～秋酒と紅ズワイ～」と銘打って開く。2日間でカニ300人分（予定）を用意するほか、市内唯一の酒蔵である魚津酒造が、厳冬期に仕込んで春から夏にかけて熟成させた季節限定の日本酒「ひやおろし」2種などとのペアリングを楽しめるようにした。地元飲食店や海産物販売店など9店が出店する「うまいもん屋台」もある。

同社事業統括マネジャーの近藤史彦さん(46)は「ぜひ気軽にふらっと立ち寄って、魚津の食を楽しんでほしい」と話している。同社はこのイベントを皮切りに今後も飲食イベントや産業観光ツアーなどを企画していくという。

「魚津駅前屋台～秋酒と紅ズワイ～」は10日午後5時～同9時、11日午後1時～同5時に開催。「秋酒とゆで紅ズワイ（半身）セット」（2500円）、「魚津の地酒呑み比べセット」（1500円）などの提供を予定している。

水揚げされ、朱色に輝くベニズワイガニ＝9月24日、魚津港

KOKOくろべ来場者増

黒部 道の駅大賞全国8位影響

黒部市の道の駅KOKOくろべの本年度8月末までの来場者が、前年同期比4%増の約46万2千人になり、売上高も15%増となった。市は雑誌「田舎暮らしの本」の「道の駅大賞2025」で全国8位、北陸1位になったことが影響したとみる。17日の黒部市議会観光・都市活性化振興特別委員会で、高野早苗氏の質問に市側が明らかにした。

市によると、7月末からの夏休み期間にはスタンプラリーや子ども向けの仕事体験会といった五つのイベントが開かれ、来場者増加を後押しした。隣接する市黒部浄化センターで8月31日に開かれたアクアパークフェスティバルとの相乗効果もあったという。

中野淳雄氏は、国道8号沿いにあるKOKOくろべや付近の施設をPRする看板の設置を要望。周辺では市総合公園内にドッグランが試験設置される予定もあり「PRが『おとなしい』印象があり、ぜひ設置してほしい」とし、市は「検討したい」と答えた。

全国各地で開かれている「北前船寄港地フォーラム」の県内開催に向けた調査・検討を続けることも確認した。

市議会9月定例会で、同委員会の委員長を務めていた中野氏が副議長になったことから、新たな委員長に大辻菊美氏が就いた。

北日本新聞2025年9月18日(木)

NHK 岐阜「まるっと！ぎふ」 9月19日 放送回

北日本新聞2025年10月10日(金)

接客プロから学ぼう

商品の魅力 笑顔で説明

滑川高の模擬会社「滑商」

18、19日 有磯海SAで販売実習

18、19の両日に北陸自動車道有磯海サービスエリア（SA）・上り線（滑川市栗山）で販売実習を行う滑川高校商業科3年生の模擬株式会社「滑商」は9日、同校で商品販売のプロから接客のポイントを学んだ。生徒たちは、笑顔での応対やお客さんに伝わりやすい商品の説明などを実践した。（藤木優里）

販売実習に向けて接客のポイントを学ぶ生徒＝滑川高校

商業科では長年、滑川市と姉妹都市の長野県小諸市、北海道豊頃町、栃木県那須塩原市の特産品を販売する実習に取り組む。ことしは生徒が考案した商品を販売する場として連携・協力する同SA上り線を会場に、各市町で作られているミルクコーヒーやそば、チーズなどを売る。滑川高の生徒が開発した肉まんやバーガー、ラーメンも提供する。

9日は同SA上り線の草島亮太支配人から、接客には笑顔と明るさ、商品への理解が大切なことなどを教わった。その後、教員も交えて店員役と客役に分かれ、接客に加え商品のおいしさや特徴などを伝える練習に臨んだ。

滑商の田中涼雅社長は「商品の魅力をしっかり知って最大限お客さんに伝えられるようにしたい」、栃山陽菜璃さんは「当日は緊張するだろうけど、姉妹都市の商品の魅力を伝えられる接客をしたい」とそれぞれ意気込んだ。販売実習は18、19の両日、午前10時～午後3時に行う。

丹精込めた115点

秋の山野草展

立山

立山町山草会（森壽信代表）の「秋の山野草展」が4日、同町吉

北日本新聞2025年10月5日(日)

鉢野開のグリンパルよしみねで始まり、会員が丹精込めて育てた鉢を展示している。5日まで。

会員10人が115点を出品。色鮮やかなコスモスやダイモンジソウ、ふ入りのカンアオイなどが並び、来場者が見入っていた。北日本新聞社協賛。

多彩な品種が並ぶ会場＝グリンパルよしみね

北日本新聞2025年10月17日(金)

「花水木」宿泊事業 再開

旧クロスランドホテル

4年ぶり 受け入れ順次拡大

小矢部市蟹島の飲食・入浴施設「花水木」（旧おやべクロスランドホテル）が、年内にも宿泊事業を再開する。宿泊事業はコロナ禍の2021年に廃止し、4年ぶりとなる。10月からはプレオープンとして、一部フロアで宿泊客の受け入れを始めた。

クロスランドおやべ近くにある同施設は宿泊事業を取りやめた後、宴会や飲食、入浴サービスに特化してリニューアルオープンした。YTPホールディングス（同市赤倉）が所有し、グループ会社のイルカ交通（高岡市二塚）が運営を担ってきた。

全館で宿泊営業を再開する花水木＝小矢部市蟹島

同グループは7月、宿泊事業の再開に向け、ホテル事業のノウハウを持つジェック経営コンサルタント（富山市榊入船町）に運営を委託した。インバウンド（訪日客）の受け入れ拡大を図り、イルカ交通の本業である旅客運送業との相乗効果も見込んでいる。

客室はシングル、ツインを中心に計23室。10月2日から4階フロアの6室で宿泊客の受け入れを再開した。準備が整ったフロアに順次広げる。

同施設の宿泊事業の廃止以降、小矢部市内にはビジネスホテルがない状態だったことから、共田貞孝支配人(45)は「地域活性化の一端を担っていきたい」としている。

北日本新聞2025年10月21日(火)

元気に「いらっしゃい」

滑川高販売実習 考案3品などPR

自分たちで考案した自慢の商品と姉妹都市の特産品を販売する生徒たち＝有磯海SA上り線

滑川

滑川高校商業科3年生による模擬株式会社「滑商」は18、19の両日、滑川市栗山の北陸自動車道有磯海サービスエリア（SA）上り線で、生徒が考案した商品や市の姉妹都市の特産品を販売した。

販売実習の一環で、これまでは市のイベントなどで活動してきたが、今回は初めて同SAにブースを設けた。自分たちで考案した滑川海洋深層水塩ラーメンと黒部名水ポークのメンチカツバーガー、肉まんの3品を販売した。姉妹都市の長野県小諸市、北海道豊頃町、栃木県那須塩原市の乳製品やそばなども取り扱った。

事前に接客のポイントなどを研修してきた生徒38人が、交代でブースに立って接客。19日は完売を目指し「いらっしゃいませ」と声を張り上げた。社長を務める田中涼雅さん(18)は「活動を通して姉妹都市をPRし、滑川市に貢献できればいい」と話した。

北日本新聞2025年10月19日(日)

観光交流促進へ協定

魚津市と台湾新北市板橋区

協定書を手にする村椿市長（中央左）と陳区長（同右）＝ありそドーム

魚津市と台湾新北市板橋区は18日、観光交流に関するMOU（基本合意書）を締結した。イベントや人材の交流を促進し、インバウンド（訪日客）とアウトバウンド（日本人の渡航）の双方向で活性化につなげる。

調印式がフェア会場であり、村椿晃市長と陳寄正区長が協定書を取り交わした。村椿市長は「さまざまな分野で交流が進むことを期待している」、陳区長は「両市の交流と協力の新たな始まりになる」と述べた。

フェアの台湾ブースでは板橋区の観光スポットの紹介や台湾夜市で定番のゲームを楽しめるコーナーがあった。

魚津市は7月に新北市政府教育局と教育分野でのMOUを締結している。

北日本新聞2025年10月27日(月)

地元の味覚 魅力いっぱい

黒部JC特産品イベント

黒部

黒部青年会議所は26日、食のイベント「知ってる？黒部のすごいモノ！」を黒部市の道の駅KOKOくろべで開いた。地域の特産品が学べる多彩なブースを設け、大勢の家族連れらでにぎわった。

黒部の食の魅力を知ってもらおうと企画。特産品に関するクイズや名水ポークと市販ポークの食べ比べブースなどを用意した。道の駅内にはベニズワイガニやヒラメなど特産品を紹介する七つのパネルを設置し、パネルにあるキーワードを集めるゲームもあった。

全ての催しを体験した参加者は、黒部産のコシヒカリ盛り放題の参加券を獲得。五合升で袋いっぱいに米を詰めて満喫した様子を見せていた。

黒部産コシヒカリの詰め放題に挑戦する参加者＝道の駅KOKOくろべ

北日本新聞2025年11月7日(金)

育てたタマネギ苗いかが

にいかわ総合支援学校生 道の駅で販売

大切に育てたタマネギの苗を販売する生徒＝道の駅ＫＯＫＯくろべ

黒部 にいかわ総合支援学校（黒部市石田）の高等部産業技術科の生徒は6日、同校の農園で大切に育ててきたタマネギの苗を、同市堀切の道の駅KOKOくろべで販売した。

同科の1、2年生14人は9月上旬にタマネギの種を植え、水をやるなどして苗を育ててきた。高さ20～25㌢になったため収穫し、販売用に30本を1束にまとめた。

この日は生徒4人が来店客を呼び込んだり、苗を見せたりして1束250円で販売した。北野琉希愛さん（1年）は「大きくなるか心配だったけどうまく育った。苗を傷付けないよう丁寧に束にした」と話した。

同科の生徒は農園でサトイモやダイコン、ネギなどを栽培し、同校の給食に活用している。

北日本新聞2025年11月7日(金)

蜃気楼や水族館紹介

魚津高生 台湾とオンライン交流

英語を使ってオンラインで交流する生徒＝魚津市役所

魚津 魚津高校の2年生4人は6日、魚津市役所で台湾新北市板橋区の板橋高級中学の生徒とオンラインで交流し、英語で互いの学校や地域の良さを紹介し合った。

魚津高の総合的な探究の授業の一環で実施し、「観光」をテーマに行われた。生徒は趣味や部活などを交えて自己紹介した後、魚津の魅力をPR。海岸では蜃気楼が見られることや現存する日本最古の水族館があることなどを伝えた。

澤富士拓海さん（17）は「違う文化を知り、新たな発見ができた。魚津のこともうまく伝えられた」と笑顔を見せた。

魚津市は7月に新北市政府教育局と教育分野でのMOU（基本合意書）を締結。10月には新北市板橋区と観光交流に関するMOUを交わしている。

富山新聞2025年11月8日(土)

おいしい富山ＰＲ

大阪で

北陸の食をＰＲしたマルシェ＝大阪市（県提供）

富山、石川、福井の北陸三県は7日、大阪市の損保ジャパン肥後橋ビルで能登半島地震復興応援マルシェを開き、同社の従業員に食の魅力をPRした。

富山、福井両県と同社の包括連携協定に基づいて実施した。ホタルイカの天日干しや氷見うどん、ますずしなどが来場者の関心を集めたほか、石川のイカめし、福井の越前そばも並んだ。高岡大仏や黒部峡谷をはじめ、各県の観光名所を紹介するポストカードを贈る抽選会も実施された。

県職員らは、大阪市の情報発信拠点「HOKURIKU＋（ホクリクプラス）」への来場も呼び掛けた。

東京で

県産米を買い求める社員＝東京・丸の内

県と日本生命保険相互会社の「富山県物産展」は7日、東京・丸の内の日本生命丸の内ビルで開かれ、県産米や水産加工物を買い求める社員でにぎわった。

県産ブランド米「富富富」や早生品種「てんたかく」など県産米の販売ブースに長蛇の列ができた。富山ブラックのカップ麺やホタルイカの旨煮、地酒なども人気を集めた。社員食堂では、うどんを注文した社員らを対象に県産とろろ昆布のトッピングが無料で提供された。

県と同社は2021年に包括連携協定を締結しており、物産展は昨年10月に開催された北陸三県の合同物産展に続き2回目。

メルヘン牛おいしいね

牧野祭（きょうまで） バーベキュー楽しむ

小矢部

小矢部市営の稲葉山牧野で育てている「ブランド和牛「稲葉メルヘン牛」をPRするバーベキューイベント「牧野祭」が8日、同市のクロスランドおやべで開かれた。青空の下、多くの家族連れらが自ら焼いた肉を味わった。9日まで。

メルヘン牛は年間出荷約80頭と希少で、肉質の格付けが最高ランクの「A5」。2日間の牧野祭で、ロースとモモを2頭分相当の計2千食用意した。

来場者は、県内唯一の瓦メーカー、みのわ窯業（同市雲輪）の鉄板で肉を焼いて口いっぱいに頬張った。昨年も家族で訪れた同市津沢小学校4年の和世琴映さんは「外で食べるメルヘン牛はおいしい」と話した。

市が誇る和牛の魅力を市内外にPRしようと、市とJAいなば、市観光協会でつくる実行委員会が昨年に続いて開いた。会場で1食2千円の当日券を販売している。雨の場合はテントを設ける。午前10時～午後3時。北日本新聞社後援。

稲葉メルヘン牛を味わう家族連れ＝クロスランドおやべ

北日本新聞2025年11月9日(日)

来年度地場産カタログ発行

DMO観光戦略会議

魚津

魚津観光まちづくり会社が設置する「第1回魚津DMO観光戦略会議」が19日、魚津市役所で行われた。委員らがDMOの役割を共有し、観光振興に向けた取り組みについて意見を交わした。

同社は先月、観光庁が進める観光地域づくり法人（DMO）の「候補DMO」に登録された。委員は行政や市内の観光、産業団体のメンバーら14人でつくる。この日は11人が出席し、魚津市地域活性化起業人でJTB社員の時任翔史さんがDMOの概要や役割、重要性などを説明した。

まちづくり会社は今後の取り組みとして、来年度中に地場産品を集めたカタログギフト「魚津GIFT BOOK（仮称）」を発行する事業を紹介した。

委員からは「対外的なPRが必要」「一つの事業からリピーターを増やすことが大事」などの意見が出た。

観光振興について意見交換した会議＝魚津市役所

北日本新聞2025年11月20日

晩秋の新川 魅力体感

彩りバスツアー 県内から61人

「にいかわ彩りバスツアー」が27日、滑川、黒部両市で行われ、県内全域から参加した61人が晩秋の新川地区の魅力を体感した。

ツアーは北日本新聞社が、北日本新聞ウェルプラス倶楽部の関連事業として実施した。

参加者は滑川市のほたるいかミュージアムを見学。プランクトンの発光ショーやホタルイカの生態を紹介したパネル、富山湾で水揚げされた魚やカニなどを見て回った。富山市の河原敏一さん(71)は数十年ぶりに来館したといい「海洋深層水がものすごく冷たかった。久しぶりに来て展示がとても新鮮に感じた」と話した。

黒部市では、善巧寺の天井画や市美術創造センター・セレネ美術館に収蔵されている黒部峡谷を題材にした絵画の鑑賞を楽しんだ。道の駅KOKOくろべ、宇奈月麦酒館で食事なども楽しんだ。

ほたるいかミュージアムを見学する参加者＝滑川市中川原

北日本新聞2025年11月28日(金)

道の駅 北陸1位に

家族連れに人気 進化期待

【KOKOくろべ】

市町村別 2025 重大ニュース

黒部市

記者が選ぶ重大ニュース

- KOKOくろべが「道の駅大賞」で北陸1位（3月）
- 愛本えん堤左岸沈砂池にたまった砂が用水や田んぼに流入（5月）
- 国内初の「流域ネイチャーポジティブ宣言」へ活動開始（7月1日）
- 武隈義一市長が2026年4月の市長選へ再選出馬表明（9月11日）
- 黒部商議所会頭が18年ぶりに交代し、新会頭に中西誠氏（11月1日）

子ども向けの設備が豊富で眺めも良い道の駅「KOKOくろべ」＝黒部市堀切

北日本新聞2025年12月22日(月)

2025年春にオープンした道の駅「KOKOくろべ」の人気が上昇し続ける。子ども向けの設備が豊富で家族連れから好評を集め、立山連峰を望むビュースポットにもなっている。本年度の入り込み客数は11月末時点で68万6千人で、前年度より2万5千人多くなっている。

周辺には市総合体育館や温浴施設、コンチネントホテルがあり、にぎわいが増している。ただ、施設に隣接する土地が空いて雑草が茂っており、さらなる開発や施設誘致の余地がある。

市外からの来場者に加え、市民の利用をさらに呼びかけるべきとの意見もある。季節に応じたイベントも企画されていることから、市内外から一層愛される施設への進化が期待される。

記者の目

観光周遊コース策定を

黒部市はKOKOくろべ以外にも観光資源に恵まれている。黒部峡谷やくろべ牧場まきばの風、魚の駅「生地」、石田浜海水浴場―。新川地域ではトップクラスの陣容と言えそうだ。

今後の課題は「観光周遊コース」の策定だ。交流人口の拡大や地域経済への影響は大きく、近隣市町にも良い波及効果が期待できる。実現に向け、一層の磨き上げと関係機関の連携が欠かせない。

（芦田周）

富山県立桜井高等学校 考案
『地元素材たっぷりのベジフルスイーツ』

グリーンパーク吉峰事業計画

合宿所や脱出ゲーム提案

富山大生経営分析

北日本新聞2025年1月30日(木)

富山 富山大学経済学部の学生が企業に新事業・サービスを提案する発表会が29日、同大五福キャンパスで開かれ、授業で学んだ経営分析を基に考えたプランを発表した。

ジェック経営コンサルタント（富山市淡入船町）による地域ビジネス特殊講義の一環。学生は事前にグリーンパーク吉峰を運営する「たてやま」（立山町吉峰野開、板澤正司社長）の経営状況を聞き取り分析。課題である集客や知名度アップにつながる事業計画を作成した。

発表会では板澤社長や同町商工観光課職員の前で、学生5人が順番に事業案を紹介。館内の温泉施設や近隣のスキー場を活用した合宿所としての利用や、広い敷地を生かした脱出ゲームの開催などを提案した。

板澤社長は「学生の視野の広さを感じた。実証実験などを通し、積極的に取り入れたい」と話した。

新事業案を発表する学生＝富山大五福キャンパス

富山経済同好会 2026年 1月号会報
【わが青春の１枚】

わが青春の1枚

カンボジア責任者
OUK VATHNA さんのバイクの後ろに乗ってガッツポーズ

パナソニック・カンボジアの社員の皆様と研修

バイクに乗って活動した日々

株式会社ジェック経営コンサルタント　取締役社長　山瀬　孝

この写真は2018年10月現地パナソニック・カンボジア様のご支援をしていた時の写真です。パナソニック様が創業100周年を迎えるにあたり、現地法人がSNSにて発信した写真です。（この写真を私が使用する許可を得ています。）この時、SNSのタイトルは「私たち（パナソニック）は日本人講師を招き、社員教育を行っています。日本品質です。」というものでした。当社は2015年JICAの事業スキームを活用し、カンボジアに進出しました。現地では、カンボジア政府の経済産業機関とともに食品製造業の生産性向上、安心・安全な製品づくりの講習会を全国で行っていました。現地企業の支援をすることが主なテーマでしたがパナソニック様のような大手日系企業のご支援も行っていました。（日本ではこのような大企業から声がかかることはありません。）パナソニック様は韓国企業、ドイツ企業と機烈な市場競争を展開しており、その一端で当社に声が掛かりました。成長率7%の経済で凌ぎを削るグローバル企業たち、私はワクワクしながらそれを応援して、日本人の所作を現場で指導しました。業績は非常に伸びたことを鮮明に覚えています。世界の大手企業の機烈極まりない競争する姿を近くで見ることが出来たことは非常に新鮮でした。

しかし、コロナ禍で全てがゼロになりました。日本では補助金で救済してくれることに有り難さを感じながら、現地は政府の支援は一切無く、現地企業の社員たちは即座に解雇され、彼らは田舎に帰ったと聞きます。当社は現地社員の雇用を守り支援を続けてきました。2年が経ち、現地社員とともにゼロからの出発です。2023年4月プノンペン中心部にアップルパイのお店をオープンして、現地事業の自立化を目指しています。コロナ前からいた社員たちは、アップルパイ店の経営者、店長、職人として新たなスタートをきりました。目指すはカンボジア国内で50店舗です。最近では過去のお客様も戻り、コンサルも再開しています。中にはカンボジアナンバーワンとなった醤油会社もあります。今後も青春はまだまだ続きます。ありがとうございました。

2024 年じゃらん
「泊まって良かった宿大賞」受賞、
JTB より BRONZE AWARD を受賞

NHK「ドキュメント 72 時間」
2026 年 1 月 23 日（金）22:00 ～ 放映

北日本新聞2026年2月4日(水)

高校生目線で市に提言

桜井高1年 課題の解決策発表

調べてきた地域の課題や解決策を発表する生徒＝桜井高校

黒部 地域の課題について学んできた桜井高校の1年生は3日、黒部市の同校で「地域探究 代表プレゼン発表会」を開き、課題の振興や解決策などを発表した。

生徒は、市職員による出前授業を受けたり市未来会議に参加したりして現状を把握。その上で、グループごとに設定したテーマに沿って課題や解決策を探ってきた。この日は、校内発表会を経て7グループが市職員を前に内容を発表した。

観光分野では、道の駅KOKOくろべについて「SNSによる集客を図るため、若者が好む新店を設けたりメニューを作ったりすればいい」と提言。二酸化炭素削減に関しては、市の政策は着実に進んでいるが、市民には浸透していないとして「具体的な行動を示し、PRに力を入れるべき」とした。

担当者（左）から菅笠の説明を受ける買い物客＝イオンモール高岡

「染色スゲ」模様さまざま

菅笠振興会PR 笠や帽子展示

高岡 高岡市福岡地域の「越中福岡の菅笠振興会」（川堰正治会長）の菅笠展が6日、イオンモール高岡内の地場産業品店「高岡伝渡」で始まった。スゲに色を付けた「染色スゲ」を使った多彩な笠や帽子が並んでいる。8日まで。

会員が手がけた25点のほか、ミニサイズの「豆笠」12点を展示。青に染めたスゲを使って雪化粧の富士山を表現したものや、ハートの模様を付けた作品が並ぶ。

来場者にアンケートを取り、好評だった作品は来年度から販売する。

7日はスゲのコースター作りを体験できるワークショップを開く。担当者は「日本人が昔から使ってきた便利な笠。今でも利便性は変わらない。一度見に来てほしい」とPRした。

北日本新聞2026年2月7日(土)

チューリップ TV ミタイノコレクション
「小矢部尽くしのプチ旅行気分はいかが？」
2月14日（土）放映

★プチ旅行気分はいかが？　花水木

クロスランドタワーのそばにある癒やしのスポット。
季節の食材や地元小矢部産にこだわった料理が楽しめ、
開放的な大浴場、露店風呂で日帰り入浴ができます。

西 Navi 2026年3月号（表紙）

西 Navi 2026年3月号（記事）

情報のひろば

イベント・講座、募集、お知らせなど
暮らしに役立つ情報をお届けします。
※特に記載のないものは、無料・申込不要です

飛騨の里 3月の行事

◆土びなまつり

春の訪れが遅い飛騨地方では、1カ月遅れの4月3日にひなまつりが行われます。市民の皆さんから寄贈いただいた、1,000体を超える土びなを、各民家に展示します。

日 4/3(金)まで（8:30～17:00）
¥ 市民は住所の確認ができるものを提示で入場料無料
場 飛騨の里(上岡本町1)
新井家・西岡家・
富田家・休憩所
問 飛騨の里 ☎34-4711

広報たかやま（第1430号）
3月1日発行

岐阜県

米輸出拡大へ研究会 台湾でプロモーション

岐阜県は6日、米の輸出拡大に向けた研究会を、岐阜市で初めて開いた。県は2026年度、県産米を台湾へ輸出する予定。同研究会で実施方法の協議や、バイヤーとの意見交換などを経て、11月には台湾でプロモーションを行う。

ニッポンの米 2026

産地としての方向性共有

研究会は県産米の輸出に向けた基盤作りと、知識やノウハウの共有が目的だ。生産者、30経営体や米穀関係者が、取り組みについて意見を交わした。

今後、輸出拡大を通じ、生産者の経営安定や所得向上につなげる取り組みを研究する。生産から売場、販売、輸出の仕組み作りに取り組む。①基盤作りに必要な情報の収集②相手国に合わせた商品作り③品質評価の現地でのPR活動――を行い、輸出に向けた基盤を作る。

6日は県が選定した商社3社が、輸出拡大に向けた調査結果を報告、ジェック経営コンサルタントは、台湾への輸出について、輸出の届け出や産地証明などの必要な手続きを解説した。連携予定の事業者から「食べ方の提案をしてほしい」との要望があると紹介した。

OKB総研は香港への輸出を説明。海外展開には、価格競争力の確保や、他県産米と異なる信頼の提供などがポイントとした。

県農政部の堀誉秀部長は「輸出拡大の実現には、産地としての方向性を共有し、力を合わせて取り組むことが重要で、研究会を発足した。率直な意見を聞き、共に前に進めていきたい」と話した。（堀安美沙都）

日本農業2026年3月7日(土)

犬と楽しめるSA提案

富山情報ビジネス専門学校生 全国発表会で優勝

北日本新聞2026年3月5日(木)

発表会で提案した内容を振り返る稲積さん（中央手前右）ら＝富山情報ビジネス専門学校

射水 富山情報ビジネス専門学校（射水市三ケ）の情報ビジネス学科2年生7人でつくるチーム「ワンBit」は、データマーケティングを学ぶ専門学校生が参加するDream成果発表会」で優勝した。愛犬を連れた人が北陸自動車道有磯海サービスエリア（SA）を使いやすいようにするアイデアを提案し、高い評価を受けた。

メンバーはリーダーの稲積泰乃さん(20)、亀井洸希さん(20)、清水竜成さん(22)、田中諒さん(20)、松井稔通さん(22)、山崎颯広さん(21)、渡辺陽太さん(20)の7人。2025年度に地域と連携した取り組みが多い同SAを対象に、売り上げや滞在時間などのデータを分析、実際に足を運び魅力向上策を考え、7月に利用促進へのアイデアを発表した。

売り上げ分析や需要調査

ビッグデータマーケティング教育推進協会が主催する「Dream成果発表会」は今年2月20日にオンラインで開かれ、全国7校の13チームが販売促進企画を発表。7人は既に発表した案に磨きをかけた「有磯海サービスエリアワンダフル計画」を披露した。

選挙のサービス開発に焦点を当て、犬を飼っている人へのアンケートで犬を連れて利用できるサービスの需要があることを把握。「愛犬連れ専用エリア」の開設を提案し、専用の水飲み場と洗い場や、冷暖房完備のユニットハウスの設置、飲食物や土産をモバイルオーダーでテイクアウトできるようにするアイデアを説明した。新たな客層が利用し、売り上げが年間480万円アップして初期投資は1～2年程度で回収できると試算まで行った点が高評価につながった。

7人は6日に卒業式を迎える。稲積さんは「不安だったが、みんなが役割を果たし最善を尽くして受賞できた」と喜び、清水さんは「プレゼンテーション能力を高めようと何度も練習した努力が報われた。学生生活の最後に優勝できてうれしい」と語った。

中日新聞2026年3月6日(金)

飛騨情報コーナー

◇簡単！行灯（あんどん）づくり体験　14日(土)後6～7・30、高山市上一之町の飛騨高山まちの博物館。和紙と木版画などの技法を用いてオリジナルのを用いた行灯を作り、博物館内を散策する。参加費千円で、7日(土)までに電話などで申し込む。問飛騨高山まちの体験交流館＝0577（70）8290

広報たかやま(第1430号)

3月1日発行

情報のひろば

イベント・講座、募集、お知らせなど
暮らしに役立つ情報をお届けします。
※特に記載のないものは、無料・申込不要です

簡単！行灯づくり体験

飛騨高山まちの博物館特別展「陰影の妙味」の開催にあわせ、行灯づくりを実施します。

日 3/14(土) 18:00～19:30
場 飛騨高山まちの博物館(上一之町)
定 20人　¥ 1,000円
申 3/7(土)までにTEL・MAIL
問 飛騨高山まちの体験交流館
☎70-8290
✉ machinotaiken@jeckc.com

市民時報2月18日発行

「あんどん」を作る催し まち博の企画に合わせ

飛騨高山まちの体験交流館が3月14日夜6時から飛騨高山まちの博物館で、あんどん作りのイベントを開く。

同博物館が照明器具の移り変わりを紹介する企画展を催しているのに合わせて開く。版画を刷った和紙で作り、明かりをともして館内を巡る。

料金千円。先着20人で、申し込みは7日までに体験交流館☎82290へ。

中日新聞2026年3月18日水)

まちの体験交流館1万人

高山、25年度の体験者数

体験の講師㊨と記念撮影する1万人目の家族＝高山市上一之町で（飛騨高山まちの体験交流館提供）

高山市上一之町の飛騨高山まちの体験交流館は14日、2025年度の体験者数1万人を達成した。23年度以来2度目。

1万人目は、米アリゾナ州から家族で訪れた兄弟。宮笠の編み方を体験したジギーさん(10)は「とても楽しくて素晴らしい体験ができてうれしい」。兄のベネットさん(12)とともに記念品の宮笠を受け取った。

体験館は18年にオープン。写真が豊富な手順書を整えるなどインバウンド（訪日客）も参加しやすい環境を整え、25年度は近隣の子ども向けの作品製作会を開くなど、地元住民の認知度向上も目指してきた。

井関幸代館長(54)は「観光で訪れる方が多い施設だが、地域の皆さまのご理解とご協力に支えられてこその結果。今後も地域に親しまれる施設を目指したい」と意気込んだ。

（徳永真之介）

※飛騨高山まちの体験交流館の今年度体験者数が14日に1万人を達成した。1万人目はアメリカ・アリゾナ州のベネット君（12）、ジギー君（10）の兄弟。

富山県立大門高等学校　情報デザイン部の生徒さん制作の季節の編み物を
3月16日（月）～22日（日）の1週間、おやべクロスランドホテル 花水木のロビーにて展示。

北日本新聞2026年3月18日(水)

障害者アート 会場を彩る

KOKOくろべ

黒部

黒部市内の障害福祉サービス事業所の利用者らが創作したアートを展示する「KOKOのアート」が17日、同市堀切の道の駅KOKOくろべで始まり、施設内を明るく彩っている。23日まで。

天井からつり下げられた気球のアートが目を引く会場＝道の駅KOKOくろべ

自己表現できる場を設けるとともに、施設を訪れる人たちに障害の有無にかかわらず個性を尊重し合うことの大切さを伝えようと、市が開いた。

会場には、市内の6事業所の利用者が手がけた作品を展示。ペットボトルのふたを使ったモザイク画や天井からつり下げたカラフルな気球のオブジェなど、多彩なアートが並んでいる。

北日本新聞2026年3月28日(土)

風車

○…富山大芸術文化学部生が、北陸自動車道有磯海サービスエリア（SA）上り線（滑川市）で限定販売している菓子のパッケージをデザインした＝写真。

○…同学部と中日本高速道路の共同研究の一環。菓子は「有磯海　濃厚シリーズ」で、県の名所などをあしらった。専用の陳列棚の製作にも取り組んだ。

○…27日は富山市の同社事業所でお披露目。いずれも既に販売、導入され好評を得ているという。このSAに立ち寄れば、車の旅が一層楽しくなりそう。

北日本新聞2026年3月27日(金)

■死亡事故ゼロに貢献

富山　富山南署管内で500日間にわたる交通死亡事故ゼロに貢献したとして、同署は26日、富山南交通安全協会（稲田祐治会長）に県警本部長感謝状を贈った。

同署で伝達式があり、金澤孝子署長が稲田会長＝写真左＝に感謝状を手渡し、「皆さんの協力がないと達成できなかった。これからも引き続きお願いしたい」と話した。

稲田会長は「住民の皆さんをはじめ、現場で指導する協会員、警察との連携のおかげで達成できた。引き続き組織や団体の垣根を越えて協力していきたい」と話した。

北日本新聞2026年3月29日(日)

北陸の日本酒 飲み比べ

富山駅に146銘柄集結

北陸3県の日本酒を一堂に集めたイベント「Sake Nova Hokuriku」が28日、富山駅南北自由通路で開かれた。3県の63蔵元から146銘柄がそろい、大勢の日本酒ファンや観光客らが飲み比べを楽しんだ。

北陸3県などでつくる北陸三県誘客促進連携協議会などが初めて企画し、各県酒造組合が協力。富山県酒造組合からは、4月1日付で同組合に加盟する立山酒造（砺波市）も参加した。

会場では、参加者が専用のおちょこを手にブースを巡り、各蔵の代表や作り手から直接酒をついでもらい、こだわりの味に酔いしれた。各県特産のおつまみや酒器の販売もあった。

3県の酒を飲み比べた朝日町の地域おこし協力隊員、郷古昇さん(50)は「水もコメもおいしい北陸らしく、どの酒もしっかりとした味わいだった」と笑顔を見せた。

富山県酒造組合の東武司専務理事は「北陸の日本酒は地域によってさまざまな味わいがある。地元の食と共に、それぞれの個性を楽しんでほしい」と話した。

おちょこに日本酒を注いでもらう参加者（左）＝富山駅南北自由通路

濃飛バス、飛騨の里で入社式

入社式で辞令を受け取る新入社員ら＝高山市上岡本町、飛騨の里

濃飛乗合自動車（濃飛バス、高山市花里町）の2026年度入社式が30日、同市上岡本町の野外博物館「飛騨の里」で開かれ、新入社員14人が農村風景の広がる施設内で辞令を受け取った。

地域外からの入社が増える中、飛騨ならではの雰囲気や伝統を感じてもらおうと昨年から同施設で入社式を開いている。水野敏秀社長は式で「高山は年間を通じて世界中から観光客が訪れ、多くの客がバスを利用している。客の思いに寄り添える存在でありたいと考えている」とあいさつ。新入社員で飛騨市出身の平澤芽依さん(22)は「何事にもひたむきに取り組み、一日でも早く会社に貢献できる人材になれるように尽力したい」と意気込みを語った。

入社式に合わせ、座席シートの張り替えや腐食箇所の補修で昭和30年代のデザインを再現した1967年製のボンネットバスもお披露目された。

（市原萌子）

岐阜新聞2026年3月31日(火)

北日本新聞2026年4月12日(日)

■春の山野草愛らしく

立山　立山町山草会（森壽信代表）の「春の山野草展」が11日、同町吉峰野開のグリンパルよしみねで始まり、春を感じさせる102点が並んでいる＝写真。12日まで。

会員13人のうち8人が出品。シュンランやオキナグサ、チングルマなど丹精込めて育てた草花を展示している。来場者は愛らしい花などを楽しんでいた。北日本新聞社協賛。

北日本新聞2026年4月15日(水)

黒部市レンタサイクル

道の駅に新ステーション

魚津市と相互乗り入れ

黒部市は24日、同市の道の駅「KOKOくろべ」にレンタサイクルの貸し出しステーションを新設する。

自転車を置く場所や観光ルートなどを打ち合わせる市職員＝道の駅KOKOくろべ

設置に合わせて魚津市のレンタサイクルとの相互乗り入れを始め、市をまたいだ返却を可能にする。両市は広域的な観光ルートの形成につなげたい考えだ。

黒部市は昨年度からレンタサイクル事業を始め、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅と市芸術創造センター・セレネにステーションを設置。3カ所目となるKOKOくろべには電動アシスト付き自転車と普通の自転車をそれぞれ3台配置し、KOKOくろべの総合案内窓口が貸し出し手続きを担当する。

魚津市内にはあいの風とやま鉄道魚津駅の観光案内所と海の駅「蜃気楼」、金太郎温泉にステーションがある。この計6カ所で貸し出しと返却ができるようになる。

市をまたいだ返却の料金は1500円で、貸し出し時の事前精算が必要となる。黒部市商工観光課は「海沿いのサイクリングを楽しんだり、黒部市生地地区の清水巡りなどに活用したりしてほしい」と期待する。

黒部の名所 手ぬぐいに

道の駅KOKOくろべ

初のオリジナルグッズ

ステッカーも きょうから販売

黒部市堀切の道の駅「KOKOくろべ」は初めてオリジナルグッズを商品化した。宇奈月温泉にちなんだ手ぬぐいと道の駅をデザインしたステッカーで、19日から販売を始める。手ぬぐいには後立山から富山湾に注ぐ黒部川沿いの名所があしらわれ、黒部のPRと道の駅のリピーター確保につなげる。

手ぬぐいは白地に青く染めて、市内の名所と位置を柔らかな風合いで紹介するデザインになっている。富山湾に向かって、黒部ダムやトロッコ電車（黒部峡谷）、宇奈月温泉、宇奈月ビール（宇奈月麦酒館）、くろべ牧場、灯台がある生地、道の駅「KOKOくろべ」をイメージしたイラストを描いた。

ステッカーは駅併設の遊具「ふわふわドーム」や水辺エリアをデザイン。スマホや手帳に貼って使えるコンパクトなサイズだ。

昨年3月に宝島社が発行した「田舎暮らしの本」の道の駅大賞で「KOKOくろべ」が北陸1位、全国8位に選ばれたことを受け、オリジナルグッズの開発に着手。4月の開業4周年に合わせて商品化した。今後もオリジナルグッズの開発に取り組む。宮崎隆行駅長（54）は「オリジナルグッズを活用して道の駅の知名度をさらにアップさせたい」と話した。

手ぬぐいとステッカーを手に取る道の駅「KOKOくろべ」の担当者＝黒部市堀切

富山新聞2026年4月19日(日)

KOKOくろべの物販売上13・5％増

宇奈月ビール株主総会

黒部市の第三セクター「宇奈月ビール」は22日、同市宇奈月町下立の宇奈月麦酒館で株主総会を開き、第31期（2025年2月～26年1月）の決算を承認した。純利益は239万円で、道の駅KOKOくろべの物販を担う子会社の売上高が前期比13・5％増の1億9399万円と好調だった。

営業収入は前期比9・4％減の1億7961万円だった。ビール醸造設備の経年劣化による故障や観光シーズン中のインバウンド（訪日客）の減少が響いたとし、設備のリニューアルを進めていく方針を示した。

今期は、缶ビールの販売価格を100円上げつつ地産地消を前面に打ち出して販売数量を保ち、売上増加を目指す。レストランにおにぎりコーナーを増設し、昼食を取る個人客の獲得に努める。

北日本新聞
2026年4月23日(木)

北日本新聞2026年4月22日(水)

道の駅KOKOくろべ

昨年度 来場者最多91万81人

黒部市の「道の駅KOKOくろべ」の2025年度の来場者数が24年度より6％増の91万81人となり、過去最多となった。売上高も前年比14％増となる5億9481万円で、過去最高を記録した。21日の全員協議会で市が明らかにした。

市は、雑誌「田舎暮らしの本」の「道の駅大賞2025」で全国8位、北陸1位になったことや、各種イベント、周辺施設とタイアップしたスタンプラリーなどが増加につながったとみている。

同施設は、地域の魅力を発信し、新たなにぎわいの拠点として、22年4月に開業。地元の新鮮野菜を取りそろえた瑞彩マルシェや、フードコート、ふわふわドームが人気を集めている。

親子連れでにぎわうふわふわドーム＝道の駅KOKOくろべ

2026年（令和8年）4月20日 高山市民時報 （第3種郵便物認可）

リレー随筆

母の味が教えてくれたこと

須藤幸世（特産品販売店店長）

食べることが幼い頃から好きで、母の料理に親しんできました。どれもおいしく、味は今でも心に残っています。コロッケやギョーザをはじめ、お気に入りのメニューは自分でも自然と作るようになり、気付けば得意になっていました。

30代までは山菜採りに、母の実家の山へ一緒に出掛けたものです。フキノトウやセンマイ、ワラビ、タラノメ、コンテツなど。芽吹いたばかりの物を見つけるひとときは、何にも代えがたかったです。そして、山菜採りは家に帰ってからが本番。あく抜きといった下処理、調理のやり方を教わり、一つ一つと丁寧に向き合うのが楽しみでした。その積み重ねが、魅力的な食卓の一品へつながっていたのです。

中でも、アズキナが大好物。天ぷらを自分で作ってみても、母のような衣のあんばいにはなかなかならず、うまくいったりいかなかったり…。煮しめにすると、大きさはひと握りほどになりますが、風味がその分凝縮します。「じいちゃんが一番好きやった食べ方やでな」。祖父は私をとても可愛がってくれましたが、早くに亡くなりました。母からそう聞くたびに思い出もかみ締め、一層おいしく感じられました。

市内の特産品を取り扱う「まるっとプラザ」に10年ほど勤めています。地元の人や観光客から調理方法、各地の食べ方を聞くこともあり、とても楽しく、学びの多い大切な時間です。

高山で育った野菜の力強い味わいに触れ、何度も足を運んでくれる。喜びの声を聞くたび、この土地の恵みの大きさが改めて身に染みます。振り返れば、かつて当たり前に過ごした山での日々は、とてもぜいたくだったのでしょう。母との時間、教わったこと、その全てが今に生きています。

豊かな自然が育む恵み。高山ならではの野菜のうまさ。ここで生きることの豊かさ。食卓に並ぶ料理と、家族の「おいしい」という笑顔。これらを今後も大切にしたい。そして、母から教わったことを、私と同じく食べるのが大好きな娘へ少しずつ伝えるつもりです。今はまだ分からなくても、高山の魅力にいつか気付いてくれると信じて。

＝次回は上平一寿さん＝

高山市民時報2026年4月17日(金)

リレー随筆

体験がつなぐ縁、飛騨高山の魅力

井関幸代（観光施設舘長）

飛騨の工芸品製作を体験できる「飛騨高山まちの体験交流館」に、一昨年から勤めています。それまでの30年余りは地元ホテルのスタッフ。違ったことにチャレンジしようと手を挙げました。同じ観光の仕事ですが、大好きな高山の良さをもっと多くの人に発信でき、充実しています。

施設では、さるぼぼや有道しゃくし、寒笠の材料を使った小物作りなどを楽しめます。やってくるのは、国籍も年齢もさまざまな観光客。最初は少し緊張した様子でも、手を動かすと会話が生まれ、表情はいつの間にかほころんでいます。「うまくできるか不安だったけど、やってみて良かった」。そう話した海外の人が、出来上がった物を大切そうに持ち帰る姿を見て、心が温まりました。ほかにも完成した瞬間のみんなのうれしそうな顔からは、このひとときが特別なものになったのが伝わります。笑ったり、驚いたり、集中したりする参加者に、私も元気や刺激をもらっています。

体験の価値は、作った物にのみ宿るわけではありません。日常を離れ、手を動かし、人と関わることは新しい発見、心の余白につながります。同じ時を過ごした人たちが言葉を交わし、作品を見せ合う。こうした何げないやり取りの一つ一つも、それぞれの思い出になるはず。さらには高山を再び訪れるきっかけになるなど、地域との縁もできます。

体験施設ですが、そればかりではありません。「ここが好きだから」と岡県から毎月のように訪れたり、地元の人が散歩で立ち寄ったり。体験をしなくても、よりどころになっているのがうれしいです。

高山では文化や技術が、長い年月をかけて受け継がれてきました。観光客だけでなく、高山で暮らす人にこそ触れてほしいことがたくさんあります。施設を知らない人は地元にもまだいるので、来てもらえるよう試行錯誤を続けます。

体験には人と人をつなぐ力があると信じています。その積み重ねが、この町の魅力を次世代へつないでいく。そう考えると、ここで過ごす時間が少し豊かになります。

＝次回は須藤幸世さん＝

中日新聞2026年4月3日(金)

ジャズ 演者の間近で堪能

来月23日 高山・飛騨の里でフェス

ジャズミュージシャンらが演奏を繰り広げる「飛騨高山ジャズフェスティバル」が5月23日、高山市上岡本町の「飛騨の里」で開かれる。8回目の開催で、開始から10年目となる来年に終了予定。最後に向けて勢いをつけようと、実行委の久田上総さん(47)は「ぜいたくな演者のラインアップになった」と話す。

高山市と飛騨市の音楽好き5人による実行委員会が2018年から催している。今回はニューヨークで活躍する日本人ジャズピアニストの海野雅威さん(45)、年齢を感じさせない演奏で知られるドラマーの森山威男さん(81)ら約10組が、合掌造り家屋や雄大な自然の中で演奏を繰り広げる。

来場を呼びかける久田さんと中谷さん＝高山市上三之町で

久田さんは「屋外が心地がいい5月の開催。地元飲食店のブースも楽しんで」。実行委の中谷昭裕さん(42)は「演者との距離の近さを感じてほしい」と来場を呼びかける。

チケットはオンラインストア＝QRコード＝で購入できる。前売り1万円、当日1万2千円。今月中は飛騨地域出身、在住者を対象に1万2千円の地元割チケットも用意し、飛騨の里や高山市民文化会館（同市昭和町）でも販売している。

（村瀬美空）

10メートルと6メートルもの大きなこいのぼり…飛騨の里

「こどもの日」に合わせて飛騨の里が、和紙でできた大きなこいのぼりを展示している（下写真）。6月5日まで。

市民から寄せられた、大きさが10メートルと6メートルほどの二つ。いずれも飛騨市の伝統工芸品「山中和紙」製で、約90年前に作られたとみられる。6メートルの物は傷みが激しかったため、これまで展示しなかったが、修復して初めて目に触れることになった。

来場者は大きさに驚いたり、写真を撮ったりして見入っている。

市民時報2026年5月1日(月)

飛騨の里が26日、施設内にある押上土蔵で民具整理会を開催。飛騨の里学芸アドバイザー・田中彰さんが参加した市民ら17人に解説した（左下写真）。

この土蔵は江戸時代～戦前の民俗資料の保管庫として使われており、普段は一般公開していない。今回、清掃のために出していた資料を分類して入れ戻す作業を行うに当たり、市民らにも昔の暮らしに触れてもらおうと開催した。

田中さんは、プラスチック用品などに替わる前のさまざまな道具について「何百年もかけて完成された」とその価値を強調。資料を整理する中で、杵（きね）の持ち手の枝の細さに着目し「餅を多くつくための使いやすさを重視して作られている」と紹介したり、大きな鍋で使う「団子すくい」の網目の形に「日本の美を感じさせるデザイン」と話したりした。

このほか、もみの付いた稲わらをたたく「へいとかち棒」を手に「昔は夜、家の中で作業しました」と農家の暮らしを伝え、参加者は興味津々に聞きながら作業していた。

市民時報2026年4月24日(金)

ファミリーマート小矢部川SA上り店
2026年も昨年に引き続き２月の恵方巻販売で北陸・長野リージョン1位を獲得。

野麦峠 安全願い開山式

高山市高根町と長野県松本市の境にある野麦峠の観光施設「野麦峠お助け小屋」で1日、シーズンの始まりを告げる開山式があった。両市の関係者約30人が出席し、山を訪れる人たちの安全を祈願。2日に名物「すな蕎麦」の提供など営業を開始する。

野麦峠は古くから東日本と西日本をつなぐ要所。明治時代から昭和初期には、飛騨から信州の製糸工場へ多くの女性が出稼ぎに向かったことで知られる。今年1月には日本労働ペンクラブが一連の史跡を「労働遺産」に選ぶなど、近年も峠への関心が高まっている。

峠を越える県道は4月下旬に冬季閉鎖を終えており、今月24日にはお助け小屋周辺で「野麦峠まつり」も開催。施設の指定管理者、ジェック経営コンサルタントの山瀬孝社長は「素晴らしい観光資源を全国、世界に広げていきたい」と話した。（徳永真之介）

神事を執り行う出席者たち＝高山市高根町で

中日新聞2026年5月2日(土)

2026年（令和8年）5月3日 日曜日

岐阜新聞

野麦峠、待望の山開き

高山市 関係者が安全祈願

高山市と長野県松本市境に位置する野麦峠（標高1672㍍）の山開き式が1日、高山市高根町野麦の休憩所「野麦峠お助け小屋」で開かれ、関係者が今シーズンの無事を祈った。

旧野麦街道（後の江戸街道）は明治から昭和初期にかけて、飛騨から信州の製糸工場に向かう工女たちが命懸けで越えた峠として知られる。県道奈川野麦高根線は冬季は雪のため閉鎖されていたが、今年は4月24日に開通した。同小屋の営業は2日から。

神事には、田中明高山市長ら両市の地元関係者約30人が参加した。同小屋の指定管理者であるジェック経営コンサルタント（富山市）の山瀬孝社長は「今季は雪解けも早かった。素晴らしい資源を全国に発信していきたい」とあいさつした。野麦峠は一昨年、「ジャパン峠プロジェクト」の100番目の峠に選ばれたことから、車やバイク愛好者の来訪が増え、売り上げが15％伸びたという。

野麦峠のお助け小屋で行われた山開き式＝高山市高根町野麦

5月24日には「第44回野麦峠まつり」が開かれる。地元住民らが工女の姿で歩く行列や民俗芸能「野麦いささ」、講演などがある。（賀浦由美子）

北日本新聞2026年5月10日(日)

丹精込めたラン93点並ぶ

町蘭愛好会

立山

立山町蘭愛好会（信濃宗義会長）の「立山春のらん展」が9日、同町吉峰野開のグリンパルよしみねで始まり、会員8人が丹精込めて育てた93点のランが並んでいる＝写真。10日まで。

春から初夏に咲くエビネやシランのほか、洋ランなどを展示。小さくて愛らしい花が特徴のイワチドリも数多く出品され、来場者が観賞を楽しんでいた。北日本新聞社協賛。

カードで学ぶ富山の魚

ゲンゲ・ホタルイカ・紅ズワイガニ…

魚津観光まちづくり会社

富山湾の魚介類を題材にしたカードが今春、魚津市で誕生した。大人から子どもまで幅広い世代に地元の特産品に関心を高めてもらおうと、魚津観光まちづくり会社（同市釈迦堂）が企画。6月30日まで市内で開催している謎解き宝探しイベント「ロード・オブ・ザ・蜃気楼」内で配布するなどして活用し、県内外の参加者に地域の魅力を発信したい考えだ。（由井魁人）

富山湾の魚を紹介しているカード＝魚津市釈迦堂

カードは、縦8センチ、横6センチ。ゲンゲやホタルイカ、紅ズワイガニといった魚津港で水揚げされる魚介類5種類と蜃気楼にちなんだレアカード1種類の計6種500枚を用意した。

素材そのものの特性を生かしつつ、色彩豊かに仕上げた絵柄が特徴。ファンタジー感があり親しみやすいデザインとなっている。生態や旬の時期などを記し、実際の写真も添えた。

4月から始まった「ロード・オブ・ザ・蜃気楼」の要所の一つ、魚津駅前の観光案内所で、先着順に無料で受け取ることができる。

同社によると、ゴールデンウイーク明けで、350人超が既にカードを入手している。担当者は「地元の子どもたちにも楽しみながら地域の魚に学びを深めてもらいたい」と呼びかける。

謎解きイベントで配布

参加者8割以上「満足」

クイズに挑戦する親子＝魚津市内

海岸線舞台に1000人が挑戦

来月末まで開催

魚津市の海岸線を舞台とした謎解き宝探しイベント「ロード・オブ・ザ・蜃気楼」が人気を集めている。今月14日時点で県内外の約千人が参加しており、アンケートでも87％の利用者が5段階評価のうち、上位2番目の「満足」以上と回答している。

イベントは、市の魅力をPRしようと地元住民でつくる「蜃気楼ロード賑わいづくり協議会」が企画。景品獲得を目指し、4月24日～6月30日の間に、市内の飲食店や公共施設など8カ所を巡りクイズに答える。

親子で参加した同市よつば小学校2年の吉森絵舞さんは「全問正解できるようがんばりたい」と意気込む。クイズを考案したタカラッシュ（東京）の担当者は「宝探しを通じて、市内の観光スポットを巡り、楽しんでもらいたい」と話す。

北日本新聞2026年5月15日(金)

着物リメークやビーズアクセ

手作りサークル紬作品展

富山 手作りサークル紬（平井真子代表）の第3回作品展示会が22日、立山町吉峰野開のグリンパルよしみねで始まった。着物をリメークした洋服や、手編みのアパレルなど多彩な作品を販売している＝写真。23日まで。

富山市を中心に会員20人が活動しており、18人が出品。ビーズで作ったアクセサリーやドライフラワーリース、木工品なども並ぶ。来場者は作品を手に取り、品定めしていた。北日本新聞社後援。

北日本新聞2026年5月23日(土)

GW入り込み数アップ

黒部市 黒部峡谷鉄道は32・4％増

北日本新聞2026年5月21日(木)

黒部市は20日、大型連休中の市内の主要施設などへの入り込み数を発表した。今年は4月29日～5月6日までの8日間を集計した。前年度の11日間の結果と比べると少なくなったものの、1日当たりの数値は軒並み増加した。上坂康弘市長が20日の定例記者会見で説明した。

宇奈月温泉（9館）の宿泊客数は1日当たり1191人と前年比9・7％増え、黒部峡谷鉄道の延べ乗客数は同4716人で同32・4％増加した。台湾からのインバウンド（訪日客）が多かったという。

道の駅KOKOくろべは同6719人で同10・3％増、吉田科学館は同2201人で同48・9％増えた。

北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅の5月3日の乗降人数も発表した。今年は2816人で、前年同日の3113人と比べて減った。市は、調査日が下り電車の帰省のピークと重ならなかったことが減少につながったとみている。

高根で野麦峠まつり

糸引き工女などにふんして峠道を歩く住民ら＝高山市高根町野麦で

街道歩き 工女しのぶ

飛騨から信州に出稼ぎに行った糸引き工女をしのぶ「野麦峠まつり」が24日、高山市高根町の野麦峠お助け小屋周辺であり、住民らが工女や検番にふんして野麦街道を歩いた。

映画の舞台にもなった野麦峠（標高1672㍍）は、明治から昭和初期に、13歳前後の少女が山越えをした難所として知られる。

イベントは高根町と松本市奈川の実行委が共催。高山市側ではずきんやわらじを身に着けた小学生ら約20人が峠道約500㍍を歩き、県境を越えて約1・7㌔歩いてきた奈川からの行列を迎えた。

式典では、長野県の岡谷蚕糸博物館の高林千幸館長が工女が近代化を支えたことを説明。飛騨市で語り部を務めた鮎飛定男さん(90)も登壇し、祖母の楽しい思い出を紹介しながら「作品では過酷に描かれているが、真実を知ってほしい」と話した。糸引き唄や、野麦地区の伝統民踊「野麦イササ」も披露された。

高山市千島町から行列に参加した岩本のどかさん(46)は「この格好で雪山を越えるなんて、精神力や体力がすごい」と話した。（北川鈴乃）

中日新聞2026年5月25(月)

岐阜新聞2026年5月26日(火)

工女の歴史に思いはせ

野麦峠まつり

岐阜と長野の県境、野麦峠（1672㍍）で24日に開かれた「第44回野麦峠まつり」さまざまな催しで、険しい峠を越えて飛騨から長野県の製糸工場へ出稼ぎに向かった工女たちの歴史に思いをはせた。（市原萌子）

輪になって野麦イササを踊る来場者

花をたむける参加者

祭りは岐阜、長野両県で行われ、飛騨高根と松本奈川の野麦峠まつり実行委員会が共催した。

岐阜県側では工女の衣装に身を包んだ参加者が行列をつくり、鏡池周辺などのササが生い茂る道をゆっくり歩き、映画「あゝ野麦峠」（1979年公開）の主人公として知られる政井みねさんの石像に献花した。その後、わさび沢から出発した長野県側の行列を迎え、記念撮影を行った。

祭りでは、高山市出身の音楽家中ムラサトコさんが飛騨の娘が故郷を思って歌ったという「糸引き工女の唄」を披露したほか、参加者で輪になり野麦地区に伝わる民俗芸能「野麦イササ」を踊った。

行列に参加した朝日小学校6年の増田笑さん(12)は「歩くとき、草履が脱げたり痛かったりする。何度行列に参加しても、工女さんはたくさん歩いてすごいと思う」と話した。

参加者、当時の姿で旅路たどる

工女らの格好で鏡池の周りを歩く行列＝いずれも高山市高根町野麦